

## 第2回 国営備北丘陵公園管理運営ビジョン検討懇談会 ＜議事要旨＞

■開催日時：令和6年11月1日(金)15時30分～17時00分

■会場：三次河川国道事務所公園課会議室(広島県庄原市三日市町4-10)

■主な意見

### 1. 管理運営ビジョンについて

#### (1) 各エリア取組の方向性について

- ・備北丘陵公園の最終的な目的の整理が必要である。集客目的なのか、自然保護目的なのか、今一度ユーザー視点の公園へのニーズ、期待を明らかにし、公園としてのサービスを整理する必要がある。
- ・公園内にはたくさんの施設があるが、各施設やエリアを有機的につなげていくとより魅力がアップするのではないか。また、公園内の周遊はもとより、公園と地域の周遊についての視点が今後は必要である。中国地方の中央にあるという点を活かして、より地域資源と連携する視点で考えていくべきではないか。
- ・他の地域で競合するようなものができるとう魅力が下がっていくような取組ではなく、備北丘陵公園ならではのブランディングがあって、わざわざここにくる価値がある取組をしない限り持続性がない。
- ・様々なアクティビティを提供しているなかで、何にウエイトを置くか考えることは重要である。
- ・庄原市では、食は誘客のうえで重要なコンテンツになると考えている。ひばの里の古民家の中などで、食事を提供できるとよいのではないか。公園内に食べるところが少ない印象。
- ・利用者がどこをどう使うか、という表層的なルート設定ではなく、公園の利益と公共性を両立させる戦略を考えるべき。公共施設として、中国地方の自然・環境・歴史を知ってもらう・ファンになってもらう・継承してもらう・移住してもらえよう魅力のかつ分かりやすい利用ルート・戦略が必要ではないか。
- ・魅力的かつ分かりやすい公園利用の示し方として例えば利用者目線でユーザーのターゲットや公園利用のストーリーを示す方法もある。

#### (2) キャッチコピー・コンセプト、推進体制について

- ・地域に愛され続ける公園を目指すべきでそのための地元の気運醸成を考えるとビジョン推進にあたって地域との連携は優先して取り組み続ける必要がある。そのためには地元の住民、自治会、企業等の意見も取り込んで考えることが必要。
- ・キャッチコピー・コンセプトとしては今までの議論を踏まえ、「必ず推進する必要がある点、あるいは、踏み外してはいけない観点」として示し、今後20年の公園管理運営の中で関係事業者間の共通の認識として共有し続けることが重要である。

### 2. 懇談会の今後の進め方について

- ・特に意見無し。

以上